

地域の活力を生み出す スマートインターチェンジについて

丸山 尚樹¹・佐伯 康夫¹・藤川 真一¹

¹九州地方整備局 企画部 広域計画課 (〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-10-7)

スマートインターチェンジは、高速道路の通行者及び利用者の利便性の向上、地域の活性化、物流の効率化に寄与するため全国各地でスマートインターチェンジの整備が進められている。九州管内では現在までに16箇所スマートインターチェンジが開通しており、アクセス時間の改善による企業誘致、物流の効率化、観光振興への貢献、救急医療活動への寄与など、様々な効果が確認されている。また、スマートインターチェンジを活用した利用促進方を検討し、地域活性化に関する事例も確認されている。本稿では、その内容について紹介する。

キーワード スマートインターチェンジ、地域活性化、利用促進方策、観光振興

1. はじめに

日本の高速道路は約11,900kmが供用されており、交通・物流拠点の中心を担っている。しかしながら、高速道路の利用に欠かせないインターチェンジは平均設置間隔が約10kmと欧米諸国の約2倍となっており、本来高速道路を利用する車が活用されにくい状況である。そこで、既存の高速道路の本線、サービスエリア等を活用し、従来のインターチェンジより低コストで導入できるETC専用のスマートインターチェンジ（以下スマートIC）を整備することで、地域活性化や物流効率化等に寄与している（図-1）。全国では令和4年4月時点で147箇所のスマートICが開通しており、九州管内では16箇所開通、2箇所事業中となっている（表-1）。本稿では九州管内のスマートICの開通によってその周辺地域にもたらした効果や実施されている利用促進方を紹介する。

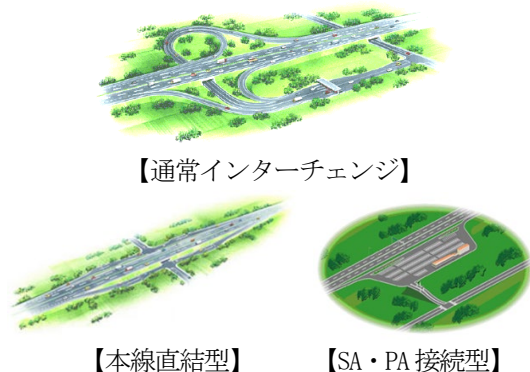


図-1 スマートICイメージ図

表-1 九州のスマートIC整備状況

	開通済箇所	道路名	開通日
1	須恵	E3	H16.12.18
2	別府湾(下り)	E10	H20.9.12
	別府湾(上り)		H30.8.5
3	<u>宮田(北向きハーフ)</u>	E3	H23.3.26
4	<u>宇城氷川</u>	E3	H26.3.29
5	今川	E10	H26.12.13
6	上毛	E10	H27.3.1
7	山之口	E10	H28.9.24
8	由布岳	E34	H28.11.27
9	<u>門川南(南向きハーフ)</u>	E10	H29.3.25
10	<u>城南</u>	E3	H29.7.9
11	木場	E34	H30.3.18
12	小城	E34	H30.3.31
13	<u>北熊本</u>	E3	H31.3.24
14	<u>人吉球磨</u>	E3	R1.8.10
15	<u>国富</u>	E10	R1.10.6
16	桜島(鹿児島方面2/4)	E3	H31.3.30
	桜島(熊本方面出口3/4)		R2.3.20
	桜島(熊本方面入口4/4)		R3.3.13

	事業中箇所	道路名	備考
1	<u>味坂</u>	E3	H30事業化
2	<u>新富</u>	E10	R2事業化

※斜体・下線付は本線直結型、その他はSA・PA接続型
事業中箇所の名称は仮称

2. 整備効果事例

スマートICの整備に伴い、周辺地域における観光施設の集客数増加などの観光振興や企業誘致、雇用創出などの産業振興といった効果が確認されている。以下で具体的な事例を説明する。

(1) 観光振興

スマートICの整備により、インターチェンジ10分圏域の拡大や隣接するインターチェンジを周遊する新たな観光ルートの形成がなされ、観光客の増加に寄与している。大分県内では別府インターチェンジから10分圏域の観光地が多い別府市内の南部地域に比べ、北部地域の観光客が減少していたが、別府湾スマートIC開通後、北部地域の10分圏域が拡大されるとともに、近隣の由布岳スマートICと合わせて、温泉地やテーマパークなど利用するインターチェンジを使い分けた周遊ルートが形成され、由布市は観光客の増加に繋がっている（図-2, 3）。

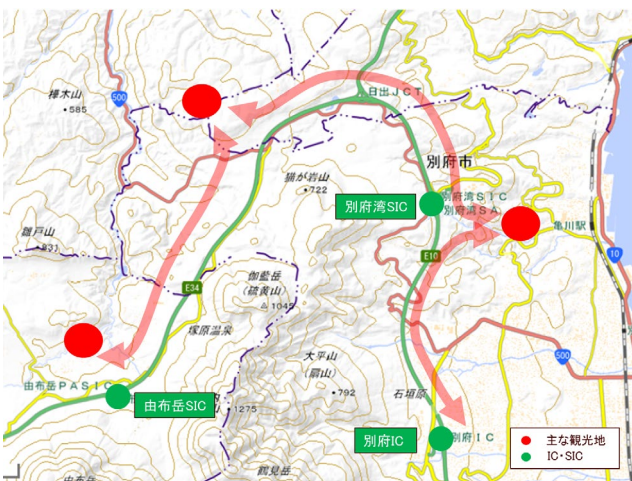


図-2 別府湾・由布岳スマートIC周遊ルート

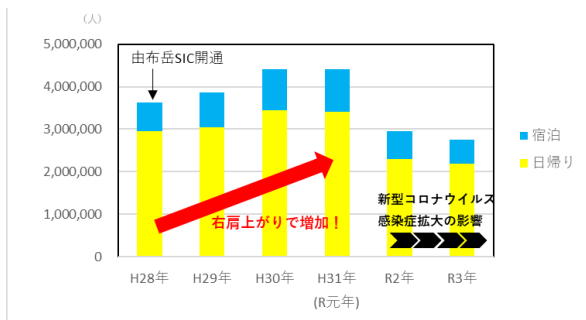


図-3 由布市観光客数¹⁾

(2) 産業振興

工業統計によると立地企業の42%がインターチェンジから5km圏内、70%が10km圏内に存在しており、スマートICの整備により、5km、10km圏域の拡大により将来を見据えた拠点として企業立地が進み、地域の企業誘致

促進や雇用創出に貢献している。

宮崎県の山之口スマートICがある都城市ではスマートICの事業化後、製造業に限らず各業種で企業の立地が進み、令和2年には過去最高の16件の誘致が実現した（図-4, 5）。その他、熊本県の城南スマートIC、北熊本スマートIC周辺でも企業誘致が実現している。各自治体による事業所へのヒアリングでは所要時間短縮のアクセス性向上により、ドライバーの負担軽減、新規取引先の確保などの声も多く上がっている。

また、工業系に関わらず、農業においても、搬送時間の短縮によって鮮度の高い農作物を広範囲に輸送が可能になるなど増産・新規就農の促進を後押ししている。



図-4 都城市工業団地立地箇所

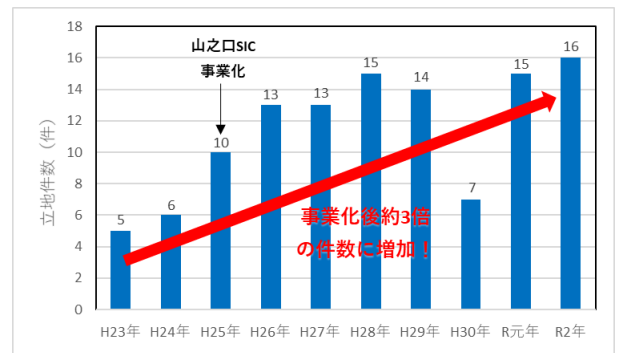


図-5 都城市企業立地状況の推移²⁾

(3) 医療サービスの向上

スマートICを活用することにより高速道路へのアクセス性が向上し、搬送時間の短縮に繋がり、救命率の向上に寄与している。また、現場からの声では一般道に比べ、高速道路を使うことによって揺れの減少につながり搬送患者の負担が軽減されているという声も上がっている。

長崎県大村市には3次救急医療施設の長崎医療センターがあり、最寄りに木場スマートICが整備されたことにより近隣市町村からの搬送時間が短縮され医療サービスの向上に大きく寄与している。（図-6, 7）



図-6 木場SIC周辺救急医療施設

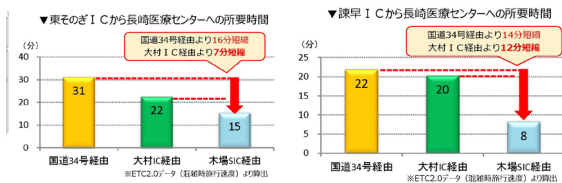


図-7 木場SICを活用した時間短縮効果

(4) 防災機能・災害支援の強化

近年の激甚化している自然災害により、既存インターチェンジ周辺も大雨による浸水被害を受け、通行止めが発生している。スマートICの整備により、災害時の避難経路や物資輸送経路、自衛隊や救急車両の緊急輸送経路などリダンダンシーが確保されることにより地域の安全に大きく寄与している。

令和2年7月に熊本県人吉市周辺で起きた豪雨災害時の救援・復旧活動において、近接する人吉ICの渋滞により、緊急車両の通行に支障が生じていたため、人吉球磨スマートICで緊急車両の退出を実施。また、災害従事車両、ボランティア車両の無料通行措置に伴い、人吉球磨スマートICの通行を可能とすることで迅速な救援・復旧活動に寄与した。(図-8, 9)



図-8 人吉球磨SIC緊急車両の様子

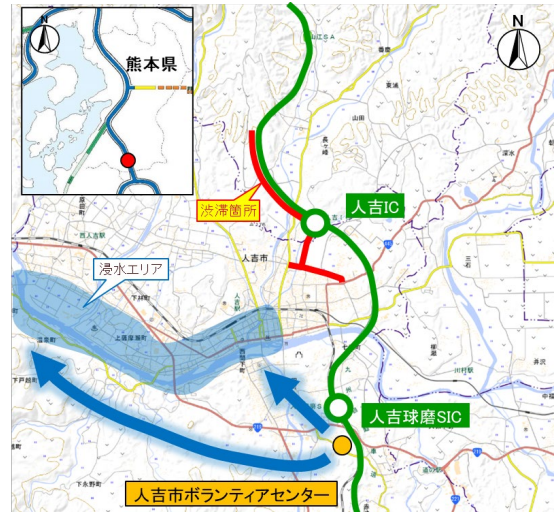


図-9 令和2年7月豪雨災害時の浸水・渋滞状況

3. 利用促進方策

スマートICの整備に伴い、スマートICの利用増進や地域の活性化を図るための方策を実施している箇所を紹介する。

(1) 小城市スマートIC (佐賀県小城市)

小城市、小城市観光協会に加え、福岡県内の企業や行政、大学等で構成された福岡地域戦略推進協議会とNEXCO西日本と連携した協議会を設立。高速道路を起点とし、スマートICを明記した観光マップの作成を行った。(図-10) また、市民や企業など地域に関わる者とともに商品の企画開発や改善など新たな価値を創造するリビングラボプロジェクトを開催し、地域活性化の実現を図っている。



図-10 小城市観光マップ³⁾

(2) 門川南スマートIC (宮崎県門川町)

スマートICを活用してもらう取り組みとしてETC車載器の設置者に対し、設置費用を補助するとともに、町広報誌や各案内掲示板等への掲載も行うことで町民に対してのアピールを行った。また、県内外の人に町に来てもらう取り組みとして県外のサービスエリアや九州でのイベント会場にて温泉入浴券付きの利用促進チラシや特産品の配布を行っている。(図-11)



図-11 鹿児島県の桜島SAでのPR活動

(3) 別府湾スマートIC・由布岳スマートIC (大分県別府市、由布市)

大分県内の各エリアや別府湾サービスエリア(上下線)を含む東九州自動車道内のサービスエリアを回るスタンプラリーを実施することで別府湾スマートIC利用促進を図った。また、由布岳スマートIC周辺(塚原地区)の活性化を図るため由布市、観光協会、国、NEXCO西日本に加え、別府市と連携して検討会を実施し、今後は周遊ドライブパス等を利用した新たな観光ルートの検討や、日帰り旅行客をターゲットにした促進策の検討を行っていく(図-12)。



図-12 つかはらガイドマップ⁴⁾

4. おわりに

本稿において、スマートICの開通によって、地域活性化に繋がる整備効果が現れていること、スマートICを活用して地域活性化のために利用促進方策が検討、実施されていることが確認された。一方で、計画時に見込んでいた交通量に達していない、整備効果が見込まれていないなどの課題も存在している。ただ交通量を満たすための方策を考えるのではなく、観光客の増加や企業誘致の成功など地域が活性化していくために地元、高速会社、行政が連携してフォローアップを行いながら利用促進方策を検討すること、スマートICがそのツールとして考えられることが重要であると考えます。

参考文献

- 1) 由布市HP
- 2) 都城市企業立地推進室
- 3) 小城市HP
- 4) 湯布院塚原高原観光協会HP